

令和8年度入学試験問題（前期日程）

小 論 文

初等教育教員養成課程
幼児教育プログラム

注意事項

1. 解答は、すべて別紙解答紙の指定の箇所に横書きで記入すること。
2. 解答紙には、必ず受験番号を記入すること。

〔1〕本文を読んで、以下の間に答えてください。なお、解答はすべて解答用紙に記述すること。

人間の赤ちゃんは、保護的な胎内生活を280日もの長い期間過ごして誕生してきます。にもかかわらず、十分に育ちきらずに生まれ、誕生後しばらくは片時も眼を離せない、いわば未熟で無能な存在です。したがって、大人による養育は必須で、人間は当たり前のように子を育てています。そこで、親をはじめ、養育に関わる人々は「どう育てるか」に心を砕き、発達心理学もどのような養育法がよいかといった研究を行ってきました。

しかし、ここ20～30年の間に、赤ちゃんの研究は急速に進み、その成果はそれまでの研究の視点を大きく転換させることになりました。確かに赤ちゃんは、ある意味、未熟であり、無能です。ところが、その未熟、無能ぶりの陰に隠れていた側面が、新たに発見されるようになりました。すなわち、未熟で無能である一方、有能な能力を備えていることです。

これまで、赤ちゃんは、眼はぱっちりしているが、はっきりと見えていないといわれてきました。しかし、新たな研究によって、赤ちゃんの視覚が、実は敏感で正確であり、しかも積極的なものであることが明らかとなっています。視界にあるものを受動的に見ているではありません。見たいものを見る、複雑なものや新奇なものを努めて見るといった好奇心に溢れているのです。

もちろん、有能なのは眼の機能だけではありません。聴覚も同様で、胎児期から母親の音声を識別し、誕生後も聴覚刺激を敏感に受け止めています。とりわけ人の声に格別の関心を示します。そして自分の興味に応じてくれる人が大好きです。この「有能な乳児」の発見は、これまで重視されてきた育て方や環境を、根本的に再考させることとなりました。

まだお座りもできず、寝ているだけの赤ちゃんが、複雑なもの、新しく珍しいもの、人的なものを積極的に探しては見つめる。それも細かな特徴をとらえようと活発に視線を動かすのです。誰に頼まれたのでもなく、また見たからといって何かを得られるのでもない。けれども、赤ちゃんは、自発的に外界を探索し、新奇で複雑な情報を取り込んでいるのです。そこには、赤ちゃんが、自分の使える器官を精一杯使って、外

の世界を探索し刺激を求める好奇心をもっていることを認めないわけにはいきません。

子どもは成長するにしたがって、自力でできることが増えてゆきます。するとその新しい力を使うことや、その力でできたことに強い興味をもちます。たとえば、ボールを手でつかみ投げることができるようになると、子どもは何度もボール投げをくり返し行います。おとなからすると、「なぜ？」と思うほど無用な執着に見えます。しかし、子どもは、自分ができるようになった力を使って外界を探索し、発見しているのです。それは子どもにとって知的好奇心を満足させている至福のときなのです。

自分の力加減によってボールの転がり方も違い、また部屋の構造や置いてあるものによってもボールの転がり方が変わるといった因果関係を発見します。さらに、どこにぶつけるか目標を決めては試してみたり、力の入れ方や障害物の位置を変えるなど工夫して、再度、試してみてその効果を確かめたりして、熱中します。子どもは、自分の力で物理学を学び、法則を発見しているかのようです。すなわち、自ら育ちつつあるのです。このように乳児が知的好奇心をもち、外界との交流を求める積極的存在であることを知れば、自ら育つ力のある子どもを育てるといのは、おこがましいことであることに気づくでしょう。

子どもは自ら学び、自ら育つ力をもつだけではありません。その力を発揮できたとき、子どもは最高の満足と自己有能感をもちます。そして、さらに新しい活動を展開していきます。すなわち、子どもは能動的な学習者なのです。他のことに眼もくれず何も耳に入らない、文字どおり我を忘れて何かに夢中になっている子どもの姿を、誰もがみたことがあるでしょう。けれども多くの場合、そのように熱中している子どもを、親やおとなはそっとしてはおきません。「早く、早く」の常套句で、おとなが予定したことに引っ張っていきます。

子どもが自発的に熱中する活動は、子どもが育つことそのものなのです。それはおとなの計画や教育以上のものです。自分ができるようになった力を使って発見し、新しい知識を得る。そして「できた！」「やった！」という自分で成し遂げたことで得られた満足感は、人から教えられては得られないことであり、知識を教えられることよりも遥かに貴重な経験です。

(柏木恵子 (2008). 子どもが育つ条件 —— 家族心理学から考える 岩波新書 pp. 151-154 出題のため一部を改変した)

(問 1) 下線部「子どもは能動的な学習者」の意味を、本文に即して具体的に 150 字以内で説明してください。

(問 2) 本文の著者の主張に触れながら、子どもをどのような存在と捉え、どのように教育すべきかについて、あなたの考えを 600 字以内で具体的に述べてください。

〔2〕子どもの理想の遊び場について、あなたの考えを1,000字以内で自由に記述してください。